

平成 29 年度 倫理シラバス

科目	倫理	単位	2	学年	3		
使用教科書	「高等学校 改訂版 倫理」(第一学習社)				副教材等		

学習の到達目標	人間尊重の精神に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。
---------	---

評価の観点			
a. 関心・意欲・態度	b. 思考・判断	c. 資料活用の技能・表現	d. 知識・理解
人間尊重の精神と自己形成について関心を高め、人格の形成と生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲をもつとともに、これらにかかわる諸課題を探究する態度を身につけ、人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	生きる主体としての自己の確立について広く課題を見いだし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探究するとともに、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断する。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択して、これらを自己形成に資するように活用するとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などにかかわる基本的な事柄を、生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。

学期	月	学習項目	学習内容(ねらい) および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
1	4	1章 青年期の課題と自己形成 ①よく生きることを求めて ②青年期の課題 ③自己の探究 1ー青年期の心とからだ 2ー青年期の人間関係 ④現代の青年期	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の特質とは何かを理解する。 ・自分の生きている青年期はどのような位置にあり、どのような発達課題があるのかを考える。 ・青年期の心身の特徴を把握するとともに、青年期の悩みの心理的特徴に気づき、悩むことが自己形成につながることを理解する。 ・高校生の意識調査の結果を分析し、そこに現れている現代の高校生の特徴を読み取る。 ・自分自身の心に起こる状態を防衛機制の図にあてはめて考え、ねばり強く欲求を抑制し、調整しながら目標達成を図る必要性を理解する。 ・生きがいについていろいろな視点から考え、今後の自分の生き方に生かす知識として身につける。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	5	2章 人間としての自覚 ①ギリシャの思想 1ー哲学の形成 2ーソクラテス 3ープラトン 4ーアリストテレス 5ーヘレニズムの思想家たち 6ーギリシャの哲学と私たちの生き方	<ul style="list-style-type: none"> ・ギリシャの思想家のものの見方・考え方を理解することにより、古代ギリシャの思想は、私たちににとってどのような意味をもつのかを考える。 ・ソクラテスの「無知の知」やプラトンのイデア論はどのようなものであるか、両者を比較しながら考察する。 ・「ソクラテスのことば」から「よく生きることこそ大切である」という彼の信念を読み取る。 ・アリストテレスの現実主義の立場を、プラトンのイデア論と対比しながら理解する。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	6	②キリスト教 1ーユダヤ教の世界 2ーイエス 3ーキリスト教の発展 4ーキリスト教が私たちに関わるもの	<ul style="list-style-type: none"> ・世界で起こっている宗教を原因とする争いを調べ、宗教とは何かについて、意欲的に考察する。 ・哲学や宗教の意義を考え、先人の生き方を手がかりに、どのように生きていくべきかを学ぶ。 ・イエスの思想をユダヤ教と対比させて、神の愛・律法の内面化という視点を中心に理解する。 ・キリスト教信仰の構造に関心をもち、キリスト教的な生き方や人間観の特徴を、興味をもって追究する。 ・キリスト教が愛の宗教であるといわれるのはなぜかを多角的・多面的に考察する。 ・聖書の文言を味わいながら、イエスの説く教えとはどのようなものであるかを学ぶ。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
		③イスラーム	<ul style="list-style-type: none"> ・イスラームはどのようにして誕生したか、ムハンマドの教えにはどのような特徴があるのか、ユダヤ教やキリスト教とはどのように関係するかを理解する。 ・メッカの方向を調べるなどして、イスラームの基本的教義(六信・五行)を実感する。 ・『クルアーン』を読み、日常の生活で行うことまで規定していることを理解する。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査

学期	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
1	6	④仏教 1ーインドの思想文化 2ーゴータマの教説 3ー仏教思想の展開 4ー今に生きる仏教の教え	<ul style="list-style-type: none"> ・インドの人々は何のような死生観をもっているかを理解する。 ・ゴータマの教えは、深い思索を続ける生き方そのものであることを理解する。 ・日本にもっともなじみの深い宗教である仏教の教えを知り、仏教思想の現代的な意義はどこにあるのかを考察する。 ・「ゴータマのこぼし」を味わい、仏教の基本である、人間どうしが支えあいながら生きていくという視点を読み取る。 ・ゴータマが説いた縁起や四諦とは何かを理解する。 		○		○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	7	⑤中国の思想 1ー中国の思想文化 2ー儒家の思想 3ー道家の思想 4ー中国思想のこれから	<ul style="list-style-type: none"> ・中国の人々の自然観・人生観を理解する。 ・陰陽五行や風水など、身近なものにも中国の思想とのかかわりがあることを知り、中国の思想に対する興味・関心を高める。 ・中国の思想は、歴史的に日本にもっとも大きな影響を与えたものであることを知り、私たちの現在や未来にどのようなかかわっているのかを考察する。 ・『論語』のなかの孔子のこぼしから、中国の思想の根本を読み取る。 ・西洋と東洋の源流にある思想を比較して、人間の生き方について説いている内容の共通点と相違点を調べ、発表や討論をする。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
2	9	3章 国際社会に生きる日本人としての自覚 ①日本の風土と伝統	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人の精神的特性が、日本の風土とどのように関連しているのかを考える。 ・書籍や聞き取り調査などから日本の神話や伝承に関する諸資料を収集し、古代の日本人がどのような倫理意識をもっていたのかを理解する。 	○			○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
		②外来思想の受容 1ー日本仏教の展開 2ー日本儒学の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の思想や文化に大きな影響を与えている仏教や儒教が日本にどのように伝えられ、どのように変容していったのか、その大きな流れを把握する。 ・法然、親鸞、栄西、道元、日蓮に関する資料を収集し、鎌倉仏教の各宗派の教義や特色を理解する。 ・日本人の価値意識と儒教との関連について理解し、正の部分、負の部分をとらえ検討する。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
		③町人意識のめざめと庶民思想 1ー義理と人情 2ー国学の成立 3ー庶民の思想 4ー伝統思想の成熟	<ul style="list-style-type: none"> ・義理と人情、儉約と正直、勤労の倫理など、現代に流れる思想に対する興味・関心を高め、日本人の庶民思想や勤労倫理の特質はどこにあるのかに気づく。 ・国学の思想と私たちの考え方で、共通するところ、異なるところ、共感するところなどを発表する。 ・義理と人情の観念、国学が提唱した人間尊重の思想、現代に流れる庶民思想は、どのようなものかを理解する。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
10	4章 現代に生きる人間の倫理 ①現代の特質と倫理的課題	④西洋思想との出会い 1ー幕末の思想 2ー明治の啓蒙思想 3ー日本社会とキリスト教 4ー社会思想の展開 5ー近代的自我の確立 6ー近代日本の思想課題	<ul style="list-style-type: none"> ・幕末の思想の特質や、文明開化が日本の伝統社会にどのような変化をもたらしたかを把握する。 ・日本の近代思想がどのように展開していったかを理解する。 ・日本人のものの見方・考え方のなかで、西洋思想の受容によって形成されたと考えられるものについて資料を収集し、国際社会に生きる日本人としての生き方・考え方をまとめる。 ・日本思想のまとめとして、国際社会に生きる日本人として、これからの自分の生き方やあり方について考える意欲を高め、今後の生き方について考える。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
		②人間の尊厳 1ールネサンスと宗教改革 2ー人間性の探究	<ul style="list-style-type: none"> ・生命、環境、家族、情報、国際化などに関する問題を概観し、私たちが取り組むべき倫理的課題について、主体的に考えるためのきっかけ作りとする。 ・これらの課題が自分の生活にどのようにかかわっているかを理解し、個々の課題について追究していくための問題意識を明確にする。 ・人間の尊厳にかかわる思想家の思索を通して、西洋の近代人は、人間の尊厳をどこに見いだしていたのかを考える。 ・現代社会において人間の尊厳を自覚することの意義について考える。 ・先哲の思想の中から、人間の尊厳に関わる資料を収集し、活用する。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査

学期	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
2	11	③近代の科学革命と自然観 1-近代の科学革命 2-経験論と合理論 3-自然観の転換	<ul style="list-style-type: none"> 近代の科学はどのような背景から生まれてきたのかを理解する。 ベーコンやデカルトによる科学的な考え方の特色を理解し、科学技術の発達と自然との共生についての興味・関心を高める。 ベーコンやデカルトの著作を読み、自然は人間の手によって操作できるとする新しい自然観をつかむ。 経験論と合理論の考え方の特色はどこにあるのかを、自己の課題とつなげて理解する。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
		④自由で平等な社会の実現 1-社会契約の思想 2-人格の尊厳と自由—カント 3-人倫と自由の実現—ヘーゲル 4-功利主義の思想	<ul style="list-style-type: none"> 近代ヨーロッパの社会契約説を通して、民主社会の成り立ちを理解し、民主社会を実現した社会契約の思想について、多面的・多角的に考察する。 ホッブズ、ロック、ルソーに関する資料を収集し、社会契約の思想の違いを整理する。 現在の政治的自由は、ヨーロッパ近代の市民革命を基礎づけた思想家たちの考えに基づくことを理解する。 カントやヘーゲルの思索の内容を整理して理解する。 西洋近代の思想家たちは、自由の実現についてどのように考えたのか、多面的・多角的に考察する。 ベンサムやミルの幸福に対する考え方の違いを理解する。 功利主義の思想からよく生きるとはどういうことかを理解し、自分自身の生き方につなげる。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
	12	⑤人間性の回復と主体性の確立 1-社会主義の思想 2-実存主義の思想 3-プラグマティズムの思想	<ul style="list-style-type: none"> 社会主義の生まれた背景とその発展過程、現代の社会主義について考察する。 実存主義が追究した生き方とはどのようなものかを理解する。 主体的なあり方は、努力をともなう生き方であることを、実存主義の思想から考察する。 略伝や図版を活用して、思想家の人生をたどりながら思想内容を理解する。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
3	1	⑥現代の思想と人間像	<ul style="list-style-type: none"> 前節までの学習を踏まえ、現代の思想は、それまでの思想からどのような影響を受け、それらをどのように乗り越えようとしているかを考察する。 フロイトやレヴィーストローヌらの著作を読み、現代の思想が発見したり注目したりしてきたものは何かを理解する。 ロールズやセンの思想から、私たちは何を学ぶことができるかを考察し、これからの生き方につなげる。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
		⑦生命への畏敬と社会奉仕	<ul style="list-style-type: none"> 実践された倫理をつらぬいた人々の生き方に対する興味・関心を高め、生命への畏敬や本当の愛とはどのようなものかを理解する。 さまざまな思想家の主張をふり返りながら、私たちの生き方はどのようなものであればよいのかを、多面的・多角的に考察する。 思想家のことばから、自らの思想をそのままに生き、一生そのようにし続けた生き方をつかむ。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
2月		5章 現代の諸課題と倫理 ①生命倫理と課題 1-遺伝子操作と生殖革命 2-脳死と臓器移植 3-自己決定の医療と新しい死生観 ②環境倫理と課題 1-化学物質汚染と地球環境問題 2-自然との共生と環境保全・保護 3-開発と持続可能な循環型社会	<ul style="list-style-type: none"> クローン技術、遺伝子組み換え、脳死臓器移植、安楽死と尊厳死、医療における自己決定権などのテーマから、追究したい課題を見だし、多面的・多角的に考察する。 生命をめぐる問題となっている事例を収集し、主体的に選択して活用する。 追究した結果を「問題点を話し合う」「自分の考えを文章にまとめる」などの方法で適切に表現する。 地球規模だけでなく、身近なところで起こっている環境問題について調べ、有限な資源を未来の世代にも配分するには何をすればよいか、環境倫理の考え方はどのようなものか、などについて考察する。 地球環境問題や化学物質汚染、環境保護活動、循環型社会をめざしたリサイクルなどのテーマから、追究したい課題を見だし、多面的・多角的に考察するとともに、広い視野に立つて主体的かつ公正に判断する。 追究した結果を「問題点を話し合う」「自分の考えを文章にまとめる」などの方法で適切に表現する。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 ノート提出 レポート作成 発表 定期考査

年次	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
3	2 月	③家族・地域社会と課題 1－高齢者と地域社会 2－変容する夫婦と男女共同参画社会	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢社会の問題点を、家族の形態や地域社会はどのように変化してきたか、それらに期待される役割とはどういったものか、などについて考察する。 ・核家族化や少子化の進行にともなう家族関係の変容、男女共同参画時代の夫婦のあり方、高齢者と地域社会のあり方などのテーマから、追究したい課題を見だし、多面的・多角的に考察するとともに、広い視野に立って主体的かつ公正に判断する。 ・家族・地域社会をめぐって問題となっている事例を収集し、主体的に選択して活用する。 ・追究した結果を「問題点を話し合う」「自分の考えを文章にまとめる」などの方法で適切に表現する。 	○	○		○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・レポート作成 ・発表 ・定期考査
		④情報社会と課題 1－電子ネットワークの諸問題 2－情報の洪水と主体性の喪失	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルに関する問題、情報社会を生きていくために必要な能力についてなどのテーマから、追究したい課題を見だし、多面的・多角的に考察するとともに、広い視野に立って主体的かつ公正に判断する。 ・高度情報化をめぐって問題となっている事例を収集し主体的に選択して活用する。 ・追究した結果を「問題点を話し合う」「自分の考えを文章にまとめる」などの方法で適切に表現する。 	○	○		○	
		⑤異文化の理解と課題 1－日本に暮らす外国人と多文化共生 2－国際感覚と日本人としての自覚	<ul style="list-style-type: none"> ・国際化とはどのようなことをさしているのか、異文化を理解するときには何に気をつければよいか、などについて考察する。 ・多様な外国人と交流する際に、私たちが守らなければならない倫理的課題は何かなどのテーマから、追究したい課題を見だし、多面的・多角的に考察するとともに、広い視野に立って主体的かつ公正に判断する。 ・国際化をめぐって問題となっている事例を収集し、主体的に選択して活用する。 ・追究した結果を「問題点を話し合う」「自分の考えを文章にまとめる」などの方法で適切に表現する。 	○	○		○	
		⑥人類の福祉と課題 1－平和な世界に向けて 2－地球市民として	<ul style="list-style-type: none"> ・各国間の経済格差の解消、難民や女性・子どもの人権保障、核兵器の廃絶など、人類全体の福祉実現に向けた取り組みを調べ、地球市民としての生き方を追究する。 ・頻発する地域紛争や民族紛争、難民問題、戦争と核兵器の廃絶の問題、などのテーマから、追究したい課題を見だし、多面的・多角的に考察するとともに、広い視野に立って主体的かつ公正に判断する。 ・人類の福祉をめぐって問題となっている事例を収集し、主体的に選択して活用する。 ・追究した結果を「問題点を話し合う」「自分の考えを文章にまとめる」などの方法で適切に表現する。 	○	○		○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・レポート作成 ・発表 ・定期考査

(注)第5章は、①②から1つ、③④から1つ、⑤⑥から1つを選択する。(文部科学省「高等学校学習指導要領 倫理」の内容の取扱いによる)